

平成 29 年度キャリアセンター自己点検・評価書

I. キャリアセンターの目的と概要

II. 領域別評価

- (1) 教育の領域
- (2) 学生支援（就職支援）の領域
- (3) 国際交流・社会貢献の領域
- (4) 組織運営の領域

III. 資料

I. キャリアセンターの目的と概要

キャリアセンターは、平成 19 年 10 月 1 日に、「国立大学法人佐賀大学キャリアセンター規則（資料 I-1）」に基づき設置された。組織構成は、キャリアセンター長（併任教授：1 名），専任教員（1 名）およびセンター併任教員（12 名：各学部 2 名），事務職員 5 名である。

キャリアセンターの目的は、キャリア教育の調査研究及び就職支援に係る業務を行うことにより、国立大学法人佐賀大学（以下「本学」）の就職支援の充実発展に寄与することである。

具体的な業務は以下の 5 点である。

- (1) キャリア教育の企画・実施に関すること。
- (2) インターンシップの実施に関すること。
- (3) 就職先の開拓に関すること。
- (4) 就職に係る調査・広報に関すること。
- (5) その他就職支援に関すること。

本自己点検・評価書では、平成 29 年度における上記業務内容について、教育，学生支援（就職支援），国際交流・社会貢献，組織運営の 4 つの領域に分けて点検，及び評価を行う。

II. 領域別評価

(1) 教育の領域（キャリア教育）

【観点①】 大学1年次の正課教育として、「大学入門科目Ⅰ（又は大学入門科目Ⅱ）」において、学生に将来の職業像を意識させるとともに、学士課程における履修計画を描かせることができるか。

（観点到係る状況）

早期から学生に将来の職業像を意識させるとともに、学士課程における履修計画を描かせることを目的として、平成16年度から、学部1年次必修科目である「大学入門科目」（15コマ、2単位）の中で、2コマ（理工学部都市工学科は3コマ）の「キャリアデザイン入門」を実施している。授業の内容としては、1コマはキャリアセンター専任教員の講義（キャリアとは何か、なぜ大学でキャリアデザインを学ぶ必要があるのか、昨今の就職活動事情と学部・学科の就職状況、大学時代にしておくべき事柄、キャリアセンターの利用方法等）、もう1コマ（都市工学科は2コマ）は各学部・学科の卒業生を招き、大学生活や卒業後のキャリアに関する講話をしていただいた。

（結果）

1,187名の学生が出席し、出席率は96.8%となり、平成28年度の出席率91.2%を上回る結果となった。

【観点②】 教養教育科目として、「キャリアデザイン」において、現代社会においてキャリアをデザインすることの重要性とその基礎となる知識を学ぶ授業を実施できているか。加えて、学生が、授業を通じて自らのキャリアビジョンを明確化し、今後の大学生活の充実に繋げるための助けとなっているか。

（観点到係る状況）

教養教育科目として、平成17年度より、全学年全学部を対象とした「キャリアデザイン」を後期に開講している（15コマ、2単位）。この講義では将来自分自身でキャリアをデザインしていく上で指針となるような知識と方法を学ぶことを目的としている。また講義の中盤では、内定者や佐賀大学各学部の卒業生をお招きし、就職活動の際どのように考えて活動したのか、社会に出てからどのように自分のキャリアをデザインしたのか、大学生活でやっておくべきことや身につけておくべきことなどを話していただく機会を計5コマ設けている。さらに講義の後半では、学習してきた知識や先輩方の講話を参考に、自分自身の現在の強みや将来のキャリアビジョンを描き、受講生同士で共有している。

（詳細は資料Ⅱ-(1)-1「H29年度 キャリアデザインシラバス」参照）

平成28年度後期より、同じく基本教養科目として「佐賀版キャリアデザイン」を開講した。「佐賀版キャリアデザイン」では、佐賀県で活躍する社会人を多く招聘し、佐賀県における多様な働き方を学生に示した。「佐賀版キャリアデザイン」の詳細に関しては、資料Ⅱ-(1)-2「Career Design in Community」及び、資料Ⅱ-(1)-3「H29年度佐賀版キャリアデザインシラバス」を参照。

また本年度、同じく基本教養科目として「地域・社会と教育」を開講した。「地域・社会と教育」で

は、地域社会のリーダーとして、地域の課題を発見・解決し、地域に貢献できる人材を育成することを目的としている。（詳細は資料Ⅱ-(1)-4「H29年度 地域・社会と教育シラバス」参照）

（分析結果とその根拠）

全学部生に対して「キャリアデザイン」、「佐賀版キャリアデザイン」及び「地域・社会と教育」を開講し、それらの受講生はそれぞれ、152名、239名及び59名であった。授業評価アンケートによる学生の満足度はいずれも4以上と高い評価を受けている。本年度、新たに開講した「地域・社会と教育」ではアクティブラーニングの手法を取り入れ、地域社会のリーダーとして活躍できるように実践的な授業を実施している。

（2） 学生支援（就職支援）の領域（就職支援、就職先の開拓、広報、インターンシップ）

【観点①】 学生のニーズに対応した就職支援を実施し、卒業生の就職状況が向上しているか。

（観点に係る状況）

就職支援の取り組みとしては、大きく分けて、就職ガイダンス、就職対策講座、学内合同・個別説明会、就職個別相談、留学生のための就職支援の5つがあげられる。以下にその詳細を記載する。

① 就職ガイダンスの実施

「民間企業志望者向け」、「公務員志望者向け」、「教員志望者向け」、「医療職志望者向け」に大別し、学部1年生から4年生まで、体系的に、就職支援のガイダンス等で支援している。医療職志望者向け以外の平成29年度に実施したガイダンスプログラムを、資料Ⅱ-(2)-1に示す。

医療職志望者向けとしては、医学部看護学科の教員と協力し、医療職志望者向けガイダンスを2回実施した。1回目は7月26日(水)に進路に関する心構え、就職活動の進め方・結果などについて、卒業生の就職活動体験報告会を実施した。2回目は9月14日(木)に面接について講義と実習を行った。

② 就職対策講座

就職対策講座については、就職活動の流れから始まり、企業研究、情報収集の仕方、インターンシップへの取り組み、エントリーシートの書き方、面接対策など、基本的には、多数の学生を対象に、講演方式で行うことが多いが、社会人としての基礎的なマナーや立ち居振る舞い、グループディスカッション等、演習を交えての支援も行っており、模擬面接等、及び、会社説明会を含み、年間合計197回のガイダンス等を実施している。この他には、本学同窓会の協力を得て「教員採用試験対策講座」（無料）、また、ジョブカフェ SAGA の協力を得て「職業適性診断」を2回開催している。平成29年度の実績を、資料Ⅱ-(2)-1に示す。

③ 学内合同・個別会社説明会の実施

学内での合同会社説明会、個別会社説明会の実施、及び学外での大規模合同説明会への案内等を行った。平成29年度の実績を、資料Ⅱ-(2)-2に示す。

その他、生協の協力を得て学内での「公務員試験対策講座」（有料）及び「教員採用試験対策講座」（有料）を実施している。

④ 就職個別相談

平成29年度も引き続き、夏季休業期間中を除き、平日の午後に常時1名の就職相談員を配置した。相談形式は、原則として、各人45分、予約の上、一対一の個別相談である。相談員の構成及び配置は以下のとおりである。佐賀大学卒で地元企業の役員経験者を、非常勤の就職相談員として

毎週 3 回、午後半日、配置した。佐賀大学卒で教職経験者 1 名、労働局での就職相談員経験者でキャリアカウンセラー、社会保険労務士などの資格を有する者 4 名の合計 5 名をローテーションで、非常勤の就職相談員として配置した。この個別相談件数を、資料Ⅱ-(2)-3 に示す。

⑤ 留学生のための就職支援

国内での就職に興味があり、就職情報のメール配信を希望する外国人留学生のリストを国際課から就職支援課に提供してもらい、外国人留学生対し、不定期に就職情報を配信した（求人紹介、個別会社説明会案内、県内企業合同就職面接会案内、留学生向け就職情報掲示板案内、留学生就職支援ネットワーク案内）。また、留学生のための就職活動ガイダンスを実施（7/6 開催）したが参加者はいなかった。インターンシップ参加の経費補助については、1 名より申請があり、12,600 円の補助をおこなった。

（分析結果とその根拠）

学生支援（就職支援）の評価指標である就職率の推移について資料Ⅱ-(2)-4 に示す。就職希望者における就職者数を表す就職率 A については、H28 年度の 98.0% と比べて 98.4% となり微増となった。また、実質的な就職率を表す就職率 B についても、学部全体でみると過去 5 年間で最高の 92.7% となっており、学生のニーズに対応した就職支援を実施し、卒業生の就職状況は十分に向上していると判断できる。参考資料として、年度中の内定・就職状況に関する推移について資料Ⅱ-(2)-5 に示す。留学生の平成 29 年度の日本国内での就職状況は、経済学部 1 名、理工学部 3 名、地域デザイン研究科 3 名、工学系研究科 3 名となっている。インターンシップ、キャリアガイダンス等へ参加する外国人留学生は少なく、参加者を如何に増やすかが課題である。

※ 就職率 A：就職志望者に対する内定率，就職率 B：進学者・社会人を除く全学生数に対する内定率

一方、今後の改善点としては以下の点があげられる。

就職相談について、平成 28 年度と比較すると 1 日平均人数は若干増加している。次年度は、学生のニーズに合わせ相談員を配置し、ニーズに合った体制を作りたい。

最後に、上記取組とは別に、平成 25 年度より全学的に実施している、学長による「学部との就職支援に関するヒアリング」を平成 29 年度も実施した。このヒアリングは、就職率 B が目標値に達していなかった学科・課程を対象に実施されているが、本ヒアリングにてキャリアセンターだけでなく各部署の指導教員の就職支援に対する意識がより高まり、面倒見の良い大学という指針の下で、学部・学科・課程単位での就職支援が強化されていることも、就職率を押し上げる要因となっていると考えられる。（ヒアリングに関する詳細については、資料Ⅱ-(2)-6 「H29 年度 学部との就職支援に関するヒアリング レジюме」参照）

【観点②】 就職先の開拓が十分に行われているか。

（観点到に係る状況）

キャリアセンター・就職支援課教職員等が、平成 29 年 6 月の全国キャリア・就職ガイダンス、大学と企業の合同相談会、9 月の 大学・企業就職研究会等に参加し、企業の人事担当者と面談して就職先企業開拓に取り組んだ。

（分析結果とその根拠）

キャリアセンター・就職支援課教職員が、地元企業はもちろん関東など全国規模で就職先の開拓を定期的に行っており、就職先の開拓が十分に行われていると判断できる。

【観点③】 就職に関する広報活動が十分に行われているか。

(観点到係る状況)

① 学生への広報

本年度も引き続き、「新入生のための就職のしおり」を作成して入学式で全員に配布、入学時点から就職を意識づけ、大学生活が充実したものになるようにしている。概略の内容は次のとおりである。

- ・キャリアセンターホームページの紹介
- ・各学部先輩からのメッセージ
- ・卒業生の進路状況、主な就職先
- ・就職支援プログラム

さらに、本学主催の合同会社説明会及び個別会社説明会（学部4年生・修士課程2年生対象）開催の際、該当の学生にメールにて案内をしている。また、支援事業については、これから就職活動を迎える学部3年生・修士課程1年生にメールにて案内をしている。

また学生への広報の取り組みとして新たに「民間企業就職先ランキング」を作成し、大学入門科目におけるキャリア教育にて、1年生全員に配布した。この冊子は、H21年度～H25年度の佐賀大学における民間企業の就職先を、学部及び学科・課程別にランキング化したものである。そのため、佐賀大学のOB・OGが多く在籍している佐賀県及び九州地区の優良企業が多く掲載されている。このような情報を学生に提供することで、キャリアセンターの取り組みのPRにも繋がり、また学生への地元企業のPRにも繋がると考えている。（「民間企業就職先ランキング」詳細は資料Ⅱ-(2)-7「民間企業就職先ランキング」参照）

② 企業等、学外への広報

学外に対しては、「Saga University Guide in 2018(2018 佐賀大学案内)」という冊子を作成し、主に、採用実績のある企業、求人を頂いている企業や、これから求人を頂きたい企業等に配布している。概略の内容は次のとおりである。

- ・佐賀大学の理念と各学部の紹介
- ・各学部の就職状況
- ・各学部の就職担当教員名簿

また平成29年度も、農学部の保護者が集まる後援会総会において、専任教員が佐賀大学における就職支援の取組について説明を行った。

(分析結果とその根拠)

学生のキャリアセンター知名度を向上させるため、ホームページに加え、新入生にパンフレットを配布するなど、積極的な広報活動が行われている。また個別の情報についてもメールにて告知することができている。企業に対しても毎年パンフレットを送付し、佐賀大学への理解と学生の採用を依頼することができている。以上より就職に関する広報活動が十分に行われていると判断できる。

【観点④】 インターンシップの拡充が十分に行われているか。

(観点に係る状況)

平成 29 年度は、佐賀県、福岡県、長崎県インターンシップ推進協議会等との協力の下、受入れ企業のリストを提供し、参加希望学生の登録、マッチングを行った。特に、本年度から県内企業インターンシップ合同説明会（年 2 回）を資料Ⅱ-(2)-8 実施し、学生に対して県内企業インターンシップへの参加を促した。平成 29 年度の学生の参加状況を、資料Ⅱ-(2)-9 に示す。またインターンシップの募集件数も年々増加しており、学生がインターンシップに参加する機会も増えている。平成 27 年度からのインターンシップの募集数推移及び参加者数推移を図表 3 に示す。

【図表 3】 インターンシップ募集数推移，参加者数推移

募集数

年度		4月～6月実施	7月～9月実施	10月～3月実施	期間の定めなし、 長期等	計
H27	企業	0	65	160	15	240
	公務員等	0	14	4	1	19
	広域インターンシップ	0	10	5	3	18
H28	企業	1	84	210	5	300
	公務員等	0	13	7	1	21
	広域インターンシップ	0	18	0	0	18
H29	企業	0	154	135	13	302
	公務員等	0	19	3	1	23
	広域インターンシップ	0	12	5	0	17

参加者数(単位認定型を除く)

年度		4月～6月実施	7月～9月実施	10月～3月実施	期間の定めなし、 長期等	計
H27		0	74	69	0	143
H28		1	153	131	5	290
H29		4	215	28	0	247

インターンシップの募集数推移を見てみると、7～9月の夏休みを中心に実施されたインターンシップの募集が H28 年度 115 件から H29 年度 185 件と 70 件の増加だったのに対して、後期に実施されたインターンシップは H28 年度 217 件から H29 年度 143 件と 74 件の減少となっている。これは、採用数を確保したい企業が学生と接触する手段として早い時期からインターンシップを開催したためと考えられる。学生の参加者数推移についても、7～9月の夏休みを中心に実施されたインターンシップの参加者が H28 年度 153 名から H29 年度 215 名と大幅増となっているが、後期に実施されたインターンシップの参加者は H28 年度 131 名から H29 年度 28 名と大幅減となっている。

なお、上記件数はキャリアセンターを通じて実施されたもののみの集計であるため、実際の参加者数はさらに多いと考えられる。

(分析結果とその根拠)

H29 年度は、採用数を確保したい企業が早い時期に学生と接触する手段として、インターンシップが夏に多く実施され、気軽に参加できる短期間のもも増えていることもあり、学生の参加者が増加している。(上記件数はキャリアセンターを通じて実施されたもののみの集計であるため、実際の参加者数はさらに多いと考えられる)このことより、インターンシップの拡充が行われていると判断できる。

インターンシップに参加した学生には「参加報告書」の提出を求め参加を把握しているが、独自に申し込みをして参加した学生からの提出はない状況である。

今後の課題として、学生が独自に申し込みをして参加したインターンシップについても把握できる仕組みを検討し、インターンシップの参加が学生の就職にどのようなつながっているのか等について、さらに調査をしていきたい。

(3) 国際交流・社会貢献の領域

【観点】 国際交流及び社会貢献が十分に行われているか。

(観点到に係る状況)

社会貢献の観点では、専任教員が平成 27 年度から継続して、下記の委員をつとめており、地域における男女共同参画の推進に努めている。

- ・女性の大活躍推進佐賀県会議 企画委員会委員

また平成 28 年度より、同じく専任教員が下記の理事をつとめ、地域の観光振興に貢献している。

- ・一般 社団法人佐賀県観光連盟 理事

さらに本年度より、同じく専任教員が下記の委員をつとめ、地域の産業振興に貢献している。

- ・佐賀県地域産業支援センター指定管理者候補選定委員会委員

(分析結果とその根拠)

留学生に対する就職支援及び留学生の育成と活用に対する地域社会との意見交換については十分に実施できていると考えられる。また社会貢献の観点では、専任教員による地域における男女共同参画の推進や、就職事情に関する情報提供を実施することができている。今後は、公開講座等を通じた社会貢献など、広く地域に貢献できる活動にも取り組みたい。

(4) 組織運営の領域

【観点】 センターの組織運営が十分に行われているか。

(観点到に係る状況)

センターは、センター長(併任)、専任教員(1名)、およびセンター併任教員(各学部2名:12名)で構成され、センター教員は佐賀大学キャリアセンター運営委員会(以下、運営委員会)を組織している。運営委員会はセンターの管理運営の基本方針に関する事項、センターの教員の人事に関する事項、学生の就職に関する重要事項、その他センターの管理運営に関する事項を審議・決定して

いる。平成 29 年度は、4 回運営委員会を開催し、就職・採用活動時期の後ろ倒しに伴う対応、教員選考や就職支援事業実施計画等について審議を行った。なお、センターの活動等に係るすべての事務は、学務部就職支援課が行っている。

(分析結果とその根拠)

全学部の併任教員で構成される運営委員会について、平成 29 年度は年間 4 回の開催となった。しかし実際は、運営委員会以外においても、各運営委員にメールでこまめに情報を提供し、学部との連携による就職支援を全学的に強化している。今後も、年度の節目において運営委員会を開催し、またそれ以外にもメールでの情報提供及び意見交換を積極的に行い、学部と連携した支援をさらに強化していきたい。

平成 29 年度佐賀大学キャリアセンターの 自己点検・ 評価に係る学外検証

実施日時 : 平成 3 1 年 3 月 1 1 日 (月) 1 0 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0

会 場 : キャリアセンター

学外検証者 : 放送大学佐賀学習センター

所 長 滝 澤 登

出 席 者 : キャリアセンター長 羽 石 寛 志

学務部就職支援課長 吉 岡 邦 浩

平成 29 年度キャリアセンター自己点検・評価書

外部評価報告書

(1) 教育の領域

(評価の水準)

「期待される水準を大きく上回る」

(判断理由)

観点① 大学1年次の正課教育として、「大学入門科目Ⅰ（又は大学入門科目Ⅱ）」において、学生に将来の職業像を意識させるとともに、学士課程における履修計画を描かせることができているか。

早期から学生に将来の職業像を意識させるとともに、学士課程における履修計画を描かせることを目的として、「大学入門科目」の中で、1コマはキャリアセンター専任教員による就職全般に関する講義、もう1コマ（都市工学科は2コマ）は各学部・学科の卒業生による大学生活や卒業後のキャリアに関する講話が実施されている。

1,187名の学生が出席し、出席率は96.8%で、平成28年度の出席率91.2%を上回る結果となっており、学生アンケートにおいても受講生の高い満足度が維持されている。

出席率の向上や受講生の満足度の高さから、観点①はその目的を十分に達成しており「期待される水準を上回る」と判断される。

観点② 教養教育科目として、「キャリアデザイン」において、現代社会においてキャリアをデザインすることの重要性とその基礎となる知識を学ぶ授業を実施できているか。加えて、学生が、授業を通じて自らのキャリアビジョンを明確化し、今後の大学生活の充実に繋げるための助けとなっているか。

教養教育科目として、全学年全学部を対象とした「キャリアデザイン」を「将来自分自身でキャリアをデザインしていく上で指針となるような知識と方法を学ぶこと」を目的として後期に開講し、152名が受講した。この講義では、キャリアデザイン概論（5コマ）、内定者や各学部の卒業生による大学生活ならびに就職活動や社会に出てからのキャリアをデザインなどの聴講（6コマ）、自己分析とキャリアビジョンの明確化（4コマ）などを実施している。

同じく基本教養科目として「佐賀版キャリアデザイン」を開講し、239名が受講した。この講義では、佐賀県で活躍する社会人を多く招聘して佐賀県における多様な働き方を学生に示すとともに、昨年度と同講義の内容をまとめた「Career Design in Community」を作成し、地域における働き方を学生に周知することに努めている。

また本年度から、同じく基本教養科目として「地域・社会と教育」を「地域の課題を発見・解決し、地域に貢献できる人材を育成すること」を目的として開講し、59名が受講した。この講義では、アクティブラーニングの手法を取り入れ、地域社会のリーダーとして活躍できるように実践的な授業を実施している。

これらの「キャリアデザイン」、「佐賀版キャリアデザイン」及び「地域・社会と教育」の授業評価アンケートによる学生の満足度はいずれも4以上と高い評価を受けている。

専任教員による新しい授業科目の開講やアクティブラーニングの導入、講義成果の活用など、講義の量と質を高める意欲的な取組みがなされ、受講者数の増加や授業満足度の高さに結び付いており、観点②はその目的を十分に達成しており「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

観点①、観点②の分析により、(1) 教育の領域は、「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

(2) 学生支援（就職支援）の領域

(評価の水準)

「期待される水準を上回る」

(判断理由)

観点① 学生のニーズに対応した就職支援を実施し、卒業生の就職状況が向上しているか。

就職支援の取り組みとして、大きく分けて、就職ガイダンス、就職対策講座、学内合同・個別説明会、就職個別相談、留学生のための就職支援の5つを実施している。

「就職ガイダンス」は、「民間企業志望者向け」、「公務員志望者向け」、「教員志望者向け」、「医療職志望者向け」に大別し、学部1年生から4年生まで、就職支援のガイダンス等を実施している。

「就職対策講座」は、就職活動の流れ、企業研究、情報収集の仕方、インターンシップへの取り組み、エントリーシートの書き方、面接対策など、多数の学生を対象に講演方式で実施するとともに、社会人としての基礎的なマナーや立ち居振る舞い、グループディスカッション等、演習を交えての支援も行なっている。この他に、本学同窓会の協力を得て「教員採用試験対策講座」、また、ジョブカフェ SAGA の協力を得て「職業適性診断」を2回開催している。模擬面接等、及び、会社説明会を含み、年間合計197回のガイダンス等を実施し、参加者は延べ3,234人であった。

「学内合同・個別説明会」は、合同会社説明会を3回、個別会社説明会を150回、企画・実施するとともに、学外での大規模合同説明会への案内等を実施している。また、生協の協力を得て学内での「公務員試験対策講座」及び「教員採用試験対策講座」を実施している。

「就職個別相談」は、夏季休業期間中を除き、平日の午後に常時1名の就職相談員を配置して、原則各人45分の1対1の個別相談を実施している。今年度の個別相談件数は、8月及び9月に実施を休止したにもかかわらず、直近3年間の相談件数とほぼ同等で、延べ933名であった。

「留学生のための就職支援」は、外国人留学生対し、不定期に就職情報をメール配信して就職支援を実施するとともに、「留学生のための就職活動ガイダンス」を実施したが参加者はいなかった。また、インターンシップ参加の経費補助を、申請のあった1名に対して実施している。

さらに、学長による「学部との就職支援に関するヒアリング」も継続的に実施されている。

これらの多様な就職支援の取り組みの結果、学生支援（就職支援）の評価指標である就職希望者における就職者数を表す就職率Aが、H28年度の98.0%と比べて98.4%となり微増し、実質的な就職率を表す学部全体の就職率Bは、過去5年間で最高の92.7%となっている。また、留学生の平成29年度の日本国内での就職状況は、経済学部1名、理工学部3名、地域デザイン研究科3名、工学系研究科3名であった。

以上のように、学生のニーズに対応した様々な就職支援を実施し、卒業生の実質就職率Bが過去最高となるなど、学生の就職に関する状況は十分に向上していることから、観点①は、「期待される水準を上回る」と判断される。

観点② 就職先の開拓が十分に行われているか。

キャリアセンター・就職支援課教職員等が、平成29年6月の全国キャリア・就職ガイダンス、大学と企業の合同相談会、9月の大学・企業就職研究会等に参加し、企業の人事担当者と面談して就職先企業開拓に取り組んでいる。

以上のように、地元企業はもちろん関東など全国規模で就職先の開拓を定期的に行っており、観点②は、「期待される水準にある」と判断される。

観点③ 就職に関する広報活動が十分に行われているか。

学生への広報として、「新入生のための就職のしおり」を作成して入学式で全員に配布、入学時点から就職を意識づけている。また、本学主催の合同会社説明会及び個別会社説明会（学部4年生・修士課程2年生対象）開催の際、該当の学生にメールにて案内をするとともに、支援事業については、これから就職活動を迎える学部3年生・修士課程1年生にメールにて案内を実施している。さらに、新たに「民間企業就職先ランキング」を作成し、大学入門科目におけるキャリア教育にて、1年生全員に配布し、佐賀大学のOB・OGが多く在籍している佐賀県及び九州地区の優良企業等の情報を学生に提供している。

企業等、学外への広報として、「Saga University Guide in 2018(2018 佐賀大学案内)」という冊子を作成して、主に、採用実績のある企業、求人を頂いている企業や、これから求人を頂きたい企業等に配布し、佐賀大学への理解と学生の採用を依頼している。

以上「民間企業就職先ランキング」を作成して学生に就職に関する情報を積極的に提供するなど、意欲的な取組みを実施していることから、観点③は、「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

観点④ インターンシップの拡充が十分に行われているか。

佐賀県、福岡県、長崎県インターンシップ推進協議会等との協力の下、受入れ企業のリストを提供し、参加希望学生の登録、マッチングを行っている。特に、本年度から県内企業インターンシップ合同説明会（年2回）を実施し、学生に対して県内企業インターンシップへの参加を促した。

インターンシップの募集数は、7～9月の夏休みを中心に実施されたインターンシップの募集がH28年度115件からH29年度185件と70件の増加だったのに対して、後期に実施されたインターンシップはH28年度217件からH29年度143件と74件の減少となっている。これを反映して、学生のインターンシップの参加者数は、7～9月の夏休みがH28年度153名からH29年度215名と大幅増となっているが、後期はH28年度131名からH29年度28名と大幅減となっている。昨年度と比べ全体として、キャリアセンターを通じて実施されたインターンシップの募集数は微増、参加者数は約50名減となっており、現状の分析に基づいて課題等もが検討されている。

以上より、観点④は「期待される水準にある」と判断される。

観点①、観点②、観点③、観点④の分析より、（2）学生支援（就職支援）の領域は、「期待される水準を上回る」と判断される。

(3) 国際交流・社会貢献の領域

(評価の水準)

「期待される水準にある」

(判断理由)

観点 国際交流及び社会貢献が十分に行われているか。

国際交流については、(3) 学生支援(就職支援)の領域の観点①で記述されているとおり、留学生向けの就職相談会を企画するなど留学生の育成と就職支援を通して、地域社会における国際交流に十分に貢献している。

社会貢献については、専任教員が、継続して、佐賀県会議の委員会委員や佐賀県観光連盟理事をつとめ、地域における男女共同参画の推進や観光振興に貢献するとともに、本年度より、佐賀県地域産業支援センター指定管理者候補選定委員会委員として、地域の産業振興にも貢献している。

以上より、従来の取組みに加え新しい事業や委員に取り組んでいることなどから、観点は、「期待される水準を上回る」と判断され、(3) 国際交流・社会貢献の領域は、「期待される水準を上回る」と判断される。

(4) 組織運営の領域

(評価の水準)

「期待される水準にある」

(判断理由)

観点 センターの組織運営が十分に行われているか。

センターは、センター長(併任)、専任教員(1名)、およびセンター併任教員(各学部2名:12名)で構成し、センター教員は佐賀大学キャリアセンター運営委員会を組織して、キャリアセンターの組織運営に当たっている。運営委員会は、平成29年度に4回開催し、就職・採用活動時期の後ろ倒しに伴う対応、教員選考や就職支援事業実施計画等について審議を行っている。また、各運営委員にメールでこまめに情報を提供し、学部との連携による就職支援を全学的に強化している。なお、センターの活動等に係るすべての事務は、学務部就職支援課が担当し、センターの円滑な運営に貢献している。

以上より、観点は、「期待される水準にある」と判断され、(4) 組織運営の領域は「期待される水準にある」と判断される。

以上のように、(1) 教育の領域については「期待される水準を大きく上回る」と、(2) 学生支援(就職支援)の領域については「期待される水準を上回る」と(3) 国際交流・社会貢献の領域と(4) 組織運営の領域は「期待される水準にある」と判断され、佐賀大学キャリアセンターの各種活動は十分に高い水準にあると考えられる。

特筆すべき点として、専任教員による新しい授業科目「地域・社会と教育」の開講や新しい資料「Career Design in Community」の作成と活用など、地域に貢献できる人材を育成するための意欲的な取り組みが挙げられる。これらの事業が継続的に実施されれば、佐賀大学の地元就職率の向上に必ずや結び付くであろうと推測するが、専任教員の転職とその後継専任教員の不補充がネガティブな効果を与えないことを願っている。また、学生の就職率Bが引き続き過去5年間で最高の92.7%を達成していることも特筆すべき点の一つである。社会の経済情勢の変化が背景にあるとはいえ、就職率の維持・向上が今後も継続されることを期待している。

キャリアセンターは、きわめて多くのキャリア教育や就職支援事業を実施しており、専任教員が不補充となっている現状では教職員の業務負担も重くなっていると思われる。センターの事業実績をデータに基づいて十分に分析し、その有効性・重要性などを検証して事業の統廃合を検討することが必要ではないかと考える。

また、教育支援・就職支援については、事業の周知や支援事業の重複などを避けるために、各部局との緊密な連携が必須であり、部局とタイムリーに意思疎通ができる組織運営に取り組むことが必要ではないかと考える。キャリアセンターは、全学の就職支援事業を統括する組織でもあり、そのためには、各部局の就職支援活動を十分に把握するとともに、主催している事業の成果について部局単位でのデータ分析等を行って各部局に積極的に提示するなど、各部局の就職支援活動を支援することも望まれていると思われる。

2019年3月25日

外部評価委員：放送大学徳院教授・佐賀学習センター所長 滝澤 登

